

(4) 平成27年度石川県水田フル活用の基本的な
考え方について

平成27年度石川県水田フル活用の基本的考え方

石川県農業活性化協議会

1 水田フル活用の基本的な考え方

国の米政策が見直された平成26年度において、過年産の在庫に加え、本年産も豊作傾向から、米価は昨年と比べ大きく下落しており、水稻を基幹とする本県農家経営に大きな影響を及ぼしている。

これらの状況や地域・集落の担い手や農地など、地域の実情を踏まえた上で、次の3項目を基本方針とし「水田フル活用」を進める。

(1) 主食用米の生産について、需給環境の好転に向けて、良質米生産県として配分された生産数量目標を遵守し、配分された範囲内で主食用米の生産を最大限行う。

① うまい・きれい石川米づくり運動を着実に推進し、1等米比率の向上を図る。

(2) 農家所得の最大化を図るため、麦・大豆及び産地戦略作物の作付拡大と産地育成を進める。

① 基本技術の励行を徹底し、品質・単収の向上を図る。

② 麦、大豆、水稻、産地戦略作物等を中心とした、輪作体系を構築し水田の高度利用を推進する。

③ 集落営農組織などを中心に、産地戦略作物の生産拡大を図る。

(3) 水稻以外の作付けが困難な地域においては、加工用米、備蓄米、輸出用米・飼料用米等新規需要米の作付けを進める。

① 産地交付金の交付対象となる、備蓄米の生産、加工用米の複数年契約に引き続き取り組む。

② 輸出用米については、他の非主食用米並の所得確保を前提とした生産拡大を図る。

③ 飼料用米については、コンタミの防止などを考慮して、主食用品種での取り組みを基本とする。

なお、ほ場の団地化や共同利用施設への受入れなど生産条件が整備されている地域、生産者においては、多収性専用品種の作付を進める。

④ 耕種農家と畜産農家のマッチングを進め、稲WCS、飼料用米の地域内流通を進める。

2 「水田フル活用推進」ワーキングチームによる地域水田フル活用ビジョン策定支援

国の見直しを踏まえ、関係団体及び県で構成する「水田フル活用推進ワーキングチーム」を昨年12月に設置し、幅広く生産者等の意見を聞くとともに、水田のフル活用による農家所得の最大化に向けた検討を進め、県段階の「水田フル活用ビジョン」の策定及び地域段階のビジョン策定の支援を引き続き実施。

平成26年度は、本業務を「新たな石川農業の展開方向検討ワーキンググループ」内で実施。

3 今後のスケジュール

- (1) 平成26年12月～平成27年5月
地域段階水田フル活用ビジョンの策定支援

～ この間 地域協議会が中心に農家説明等を実施 ～
- (2) 平成27年2月予定 通常総会
平成27年度産地交付金の市町配分（案）について
平成26年度産地交付金の実績見込みについて
平成27年度 県段階水田フル活用ビジョン（案）について 等
- (3) 平成27年4月下旬 平成27年度通常総会
平成27年度 県段階水田フル活用ビジョンの策定
- (4) 平成27年5月下旬
地域段階水田フル活用ビジョンの策定